

記 事

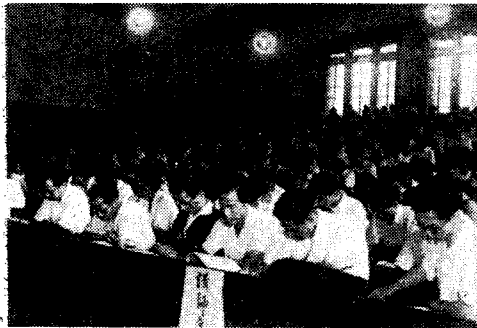
◎第3回理事会(昭.25.8.4)出席者:三浦会長、大西副会長、市浦、奥田、北村、國分、佐藤、西松、米元各理事

協議事項:(1)学士院授賞候補者推薦については吉田博士の「寒中コンクリートの研究」を推薦することとした。(2)日本学術会議会員候補者推薦について有権者数の中間報告及び候補者について諸情報の報告があり引続き研究の上次回に決定する。(3)日本熔接協会第15部会委員に奥村敏恵君を依嘱すること。(4)常議員金谷 明、岡田秀穂両君地方轉出につき後住として次点者米元卓介、塩沢 弘の両君を依嘱すること。

◎講演会と映画(昭.25.8.9.國鉄映写室)種谷 実氏の「米國の最近に於ける土木工事について」と題する講演と同氏が持帰られた工事映画と幻燈によつて説明があつた。聴講者 148 名。

◎土質工学講習会(昭.25.8.24~25.東大(一工)工学部講堂)聴講申込者 517 名であつたが實際 470 名で講堂にあふれる位の盛況で、先ず会長の挨拶に次いで各講師の熱意ある講義をプログラム通り熱心聴講し終つて修了証書を授與して講習会を閉じた。

引続いて 26 日見学会を挙行し、A班は建設省土木研究所及び赤羽分室の各実験室を見学し(参加者 140 名)、B班は運轉省運轉技術研究所港湾物象部 久里濱



研究室の各種実験室を見学(参加者 39 名)した。

◎各種委員会

(1)編集委員会(昭.25.8.18)出席者:奥田委員長、米元副委員長、本間編集顧問、伊丹、河上、國分、後藤、梅井、当銀、早川、樋口、丸安、吉越、各委員、三宅主任、岡本編集員

協議事項:(1)第 10 号登載論文決定、(2)樋口主任辞任に伴い後任として、三宅正夫氏(東京都建設局都市計画課)を編集主任と決定した。(3)地方編集委員;横道英雄(北海道)、谷垣 博(東北)、荒井利一郎(中部)

小西一郎(京都)、小田英一(中國、四國)、大岡貞則(西部)、(2)コンクリート常置委員会(昭.25.8.19~24)出席者:吉田委員長外各委員

協議事項:無筋、鉄筋(施工篇)、道路、ダム of 各部門の綜合審議を行うため5日間連続審議した(伊東日発察)近日中に鉄筋コンクリート設計篇の審議を行つて決定版ができる筈である。

◎各打合会(1)工学連合大会準備会:8月26日建築会館で工学会主催打合せを行い、奥田理事出席、戦前のような各学会別の工学大会を行わず、綜合的連合大会とし、4~3グループに分けて行ふ。会場は東大として期日は4月上旬、論文予想数約3000、理事学会で具体案をつくり、10月上旬再度集まつて決定。

(2)応用力学合同講演打合(昭.25.8.31)土木部門から土、粉体、粒体の部に土質委員会の3氏が講演されることとなつた。(3)学術会議会員候補者推薦打合会(昭.25.8.18)、出席者:三浦会長、佐藤、國分両理事、水道協会、全建協会、港湾協会、都市協会、道路協会、その他学校関係

協議事項:各協会の意向は各その立場でそれぞれ推薦して仲々決定に到らず、次の理事会で決定することとした。

・ 支部だより

◎関西支部:第3回関西工学連合会予告

(1)日 時:昭.25.10.14~15両日

(2)会 場:枚方市大阪大学工学部枚方学舎

(3)主 催:土木学会関西支部他 23 学会

(4)土木部門講演数第1部(構造力学、橋梁、土質)約20、第2部(水利、河川、水道、港湾)17の予定

◎中部支部大会

当支部では8月25、26の両日にわたり岐阜に於て大会を開催したが、会員180名の参加を得、極めて盛会であつた。特に本部からは三浦学会長及び北村学理事が臨席され錦上添花を添えられたので当支部会員の意気が大いにあがつた。該両日のプログラムは下記の通りである。

[A] 講演会第1部(25日午前10.00~12.00、於岐阜縣立大学工学部)

1. 支部長挨拶 名古屋工大教授 比企野廣治

2. 会長挨拶 土木学会長 三浦 義男

3. 特別講演

(1)岐阜縣下の土木事業に就いて

岐阜縣土木部長 鈴木 清一

(2) 猪谷吊橋の墜落に就いて

岐阜縣立大学工学部長 高橋 逸夫

[B] 講演会第2部 (25 日午後 0.30~4.30, 於岐阜縣立大学工学部)

1. 一般会員學術講演

(1) 鉄筋コンクリート家屋移轉の一例

安部工務所 安部源三郎

(2) 円筒塔状構造物に竹の節の如く付けられた床の力学的作用に就いて

名古屋工大 荒井利一郎

(3) 融着階差法の平板への応用

岐阜縣立大学 四野宮哲郎

(4) 縦桁と横行との取付に就いて

岐阜工高校長 星 治雄

(5) 木曹川橋附近の横断面水形に就いて

岐阜縣立大学 増田 重臣

(6) 砂の圧密に関する実験的研究

金沢大学 松尾 剛

(7) 稻沢停車場モデル検車区に就いて

國鉄岐阜工事事務所 溝口 博

[C] 懇談会 (25 日午後 4.40~5.30, 於岐阜縣立大学工学部) 講演会に続いて懇談会に移つたが席上先ず岐阜縣大の高橋工学部長より挨拶があり、会員の種々な感想や学会に対する会員各自の批判的意見なども出て和気あいあい裡に此の懇談会を終了した。懇談会出席者は約 100 名の多きに達した。

[D] 鶴飼見物及び懇親会 (25 日午後 7.00~10.30, 於岐阜長良川) 懇談会終了後会員有志約 50 名は長良川に於ける鶴飼見物及び懇親会に急いだ。午後 7 時より鶴匠として有名な山下氏から鶴飼に就いて約 1 時間に亘り詳細な解説を、同民特有のユーモアやゼスチユア交りで聞いた後、3 搜の遊覽 に分乘し、暮色迫る清流に船を泛べ、盃を挙げつゝ溯上すること約 3

キロ、待つ事暫し下り来る鶴船を迎えてカブリ火の下手捌きも鮮やかな鶴匠の妙技を鑑賞して鶴船と接しつゝ長良橋畔に下る。まことに茲に、妙技と詩情とを心ゆくばかり味わうことが出来た、時正に 10 時半であつた。

[E] 見学 (26 日午前 9.30~午後 3.30)

参加会員 80 名、自動車に分乘して午前中に次ぎの 2 個所を見学した

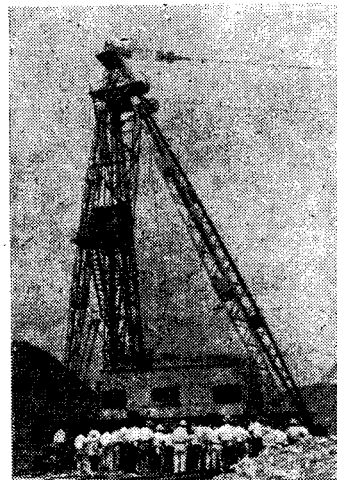
(1) 岐阜市下水処理場

(2) 岐阜市上水道浄水場

次いで大野中学校の好意に依り同校講堂に於てい一同晝食を採り、此處で秋草中部地建工務部長他関係 2 氏から午後の見学に関し解説を受けた後、午後のコース即ち

(3) 藪川改修工事に於けるタワーエクスカーターの見学に移つたが見学終了は 3 時半であつた。

斯くして絶好の日和に恵まれつゝ 2 日間に亘る中部支部大会は予想以上の好成績を得、盛会の中に其の幕を閉じる事が出来た。



タワーエクスカーターの説明を聞く

入退会報告 (8 月中)

1. 入 会 49 名 (特別員 25, 正員 20, 准員 22, 学生員 2)
2. 復 活 26 名 (正 員 20, 准員 6)
3. 退会及び死亡 13 名 (名誉員 1, 正員 4, 准員 8)

会員現在数 (昭.25.8.31)

名誉員 12, 賛助員 15, 特別員 140, 正員 2903, 准員 5679, 学生員 770 計 9519

DOBOKU-GAKKAISHI

VOL. XXXV, NO. 9, Sept. 1950

(JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS)

CONTENTS

Papers	Page
Current Fundamental Problems in River Engineering	1
On the Recent States of Civil Engineering Projects in U.S.A.	7
Simplification of Stadia Surveying	11
Stresses in Track Rails.....	15
An Investigation on the Welded Track (Abstract).....	20
New Graphical Solutions of Stress in the Ground under Foundations (Abstract).....	21
New Formula for the Axial Line of the Transformed Catenary Arch [Report I](Abstract).....	22
Reference Data.....	24
Abstracts	34
Lecture.....	37
News	39
Voice.....	42

OFFICE

No.4 2-CHOME, OTE-MACHI CHIYODA-KU, TOKYO, JAPAN.

編集後記

ひと騒がせなキジャ嬢が去つたあと、朝晩の涼しさはめつきり秋の感覚を増し始めた。梨、ぶどう、柿、栗など、季節感を添える果実が、果物店の店先に美しい色どりと香りを競い合っているし、虫たちもしきりに秋のメロデーを声高らかに合奏している。

ひいやりと 刺双ひとつ 落ちてあり

鶏頭の花 黄なる初秋

— 白 秋 —

秋は反省のとき、瞑想のとき、読書のときである。忙しさに追われていて解決のつかなかつた問題とか、過去の仕事のことなど灯下のもとでゆつくり反省してみることである。読みたいと思う本を読むのもいいだろう。

朝鮮戦線、国連軍大反撃に転ず、勝利を祈念して我々も大いに頑張ろう。

本号の担当は、市嶋、河上、山本、井口、早川の各氏でした。

昭和 25 年 9 月 25 日 印刷 土木学会誌 定價 80 円

昭和 25 年 9 月 30 日 発行 第 35 卷 第 9 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中川 一 美
印刷者 東京都港区溜池町 5 番地 大沼正吉
印刷所 東京都港区溜池町 5 番地 株式会社 技報堂

東京都中央局区内千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話丸の内(23)3945番

発行所 社団法人 土木学会 振替東京 16828 番